

【資料3】

# HPAI発生農場の 疫学調査概要について

令和6年4月15日  
農林水産省 消費・安全局  
動物衛生課

**MAFF**

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

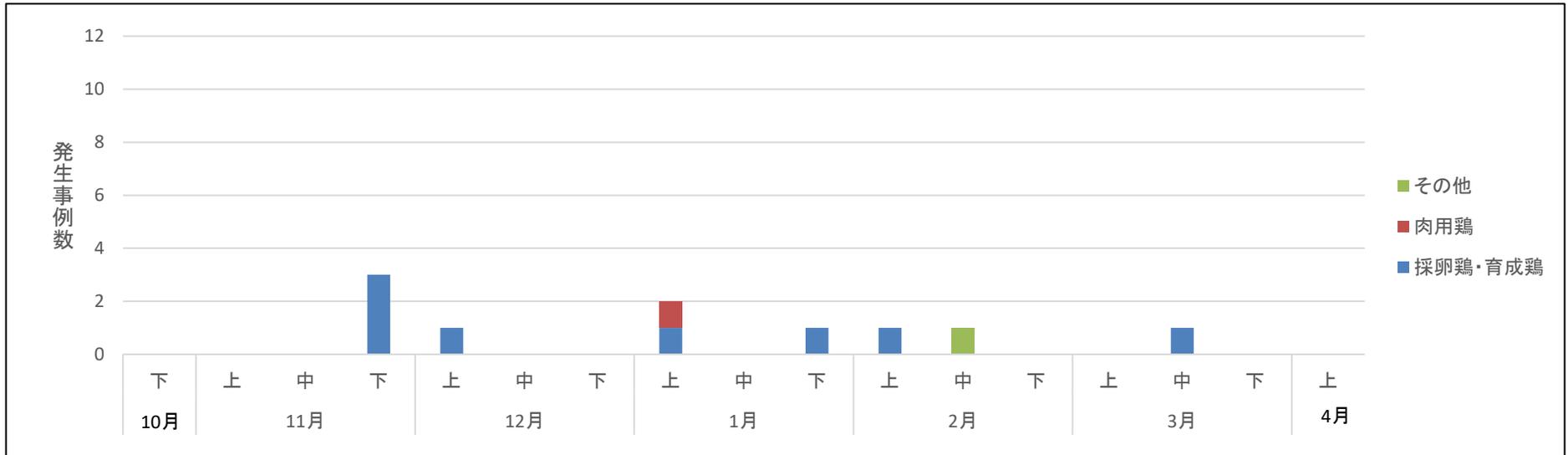
# 本日の内容

1. 今季の発生状況、農場周辺状況
2. 疫学調査時に撮影した写真
3. 家きん小委・疫学調査検討会の概要・提言

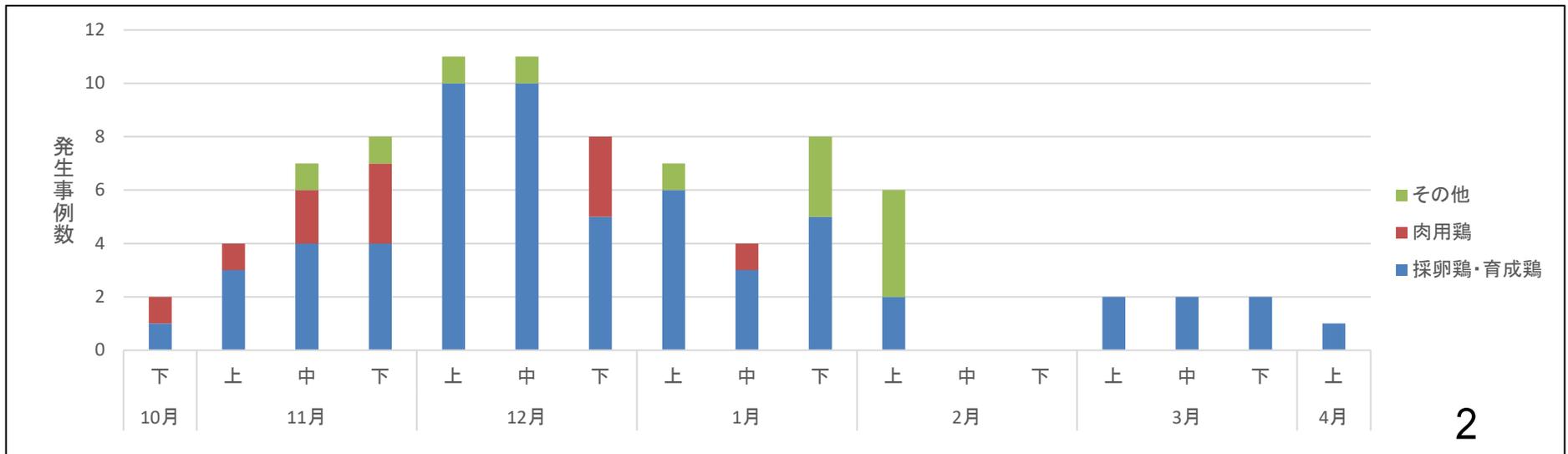
# 時期別の発生事例数

## 今シーズン(10事例)

令和6年4月3日時点



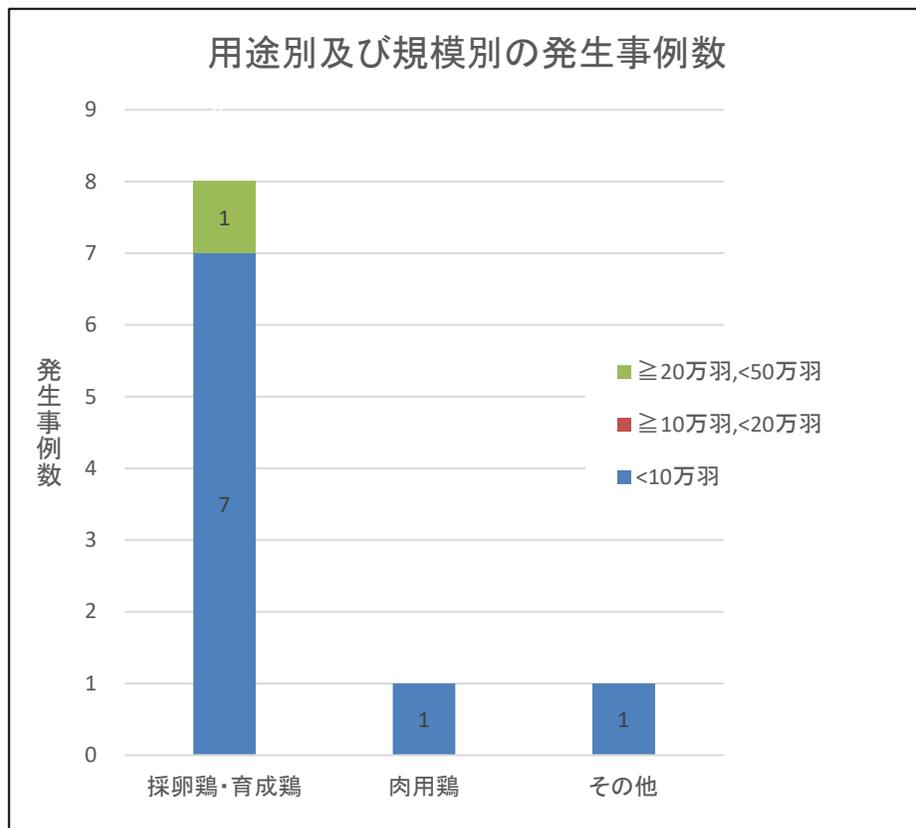
## 【参考】 昨シーズン(84事例)



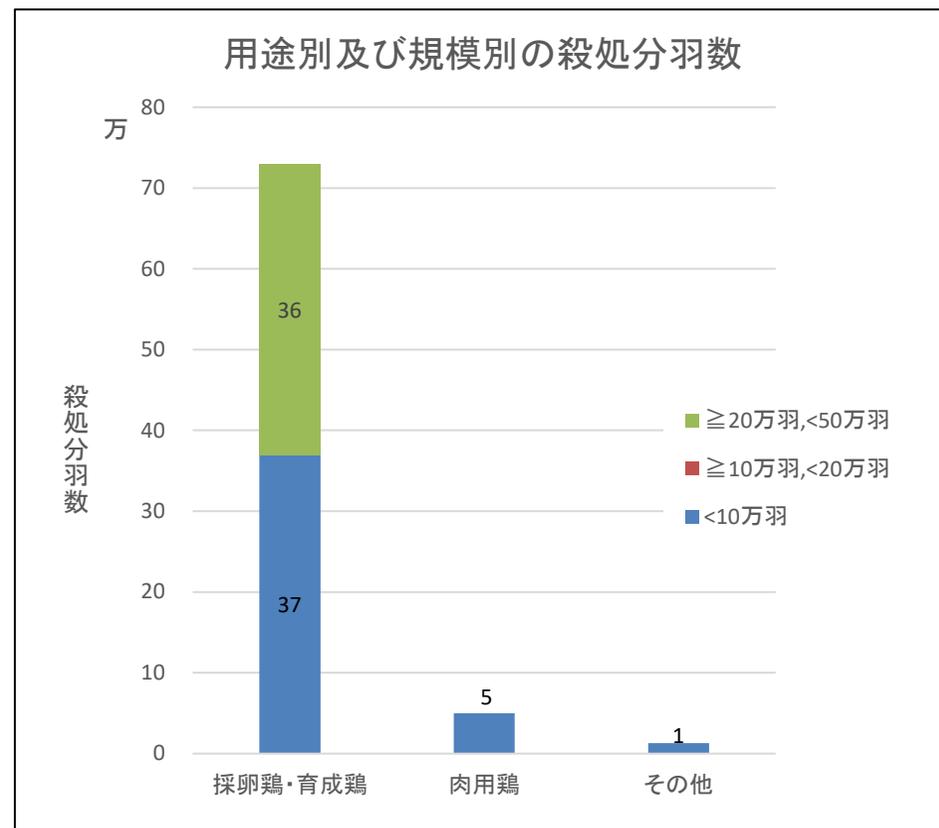
# 用途別及び規模別の発生事例数及び殺処分羽数

令和6年4月3日時点

## 発生事例数



## 殺処分羽数



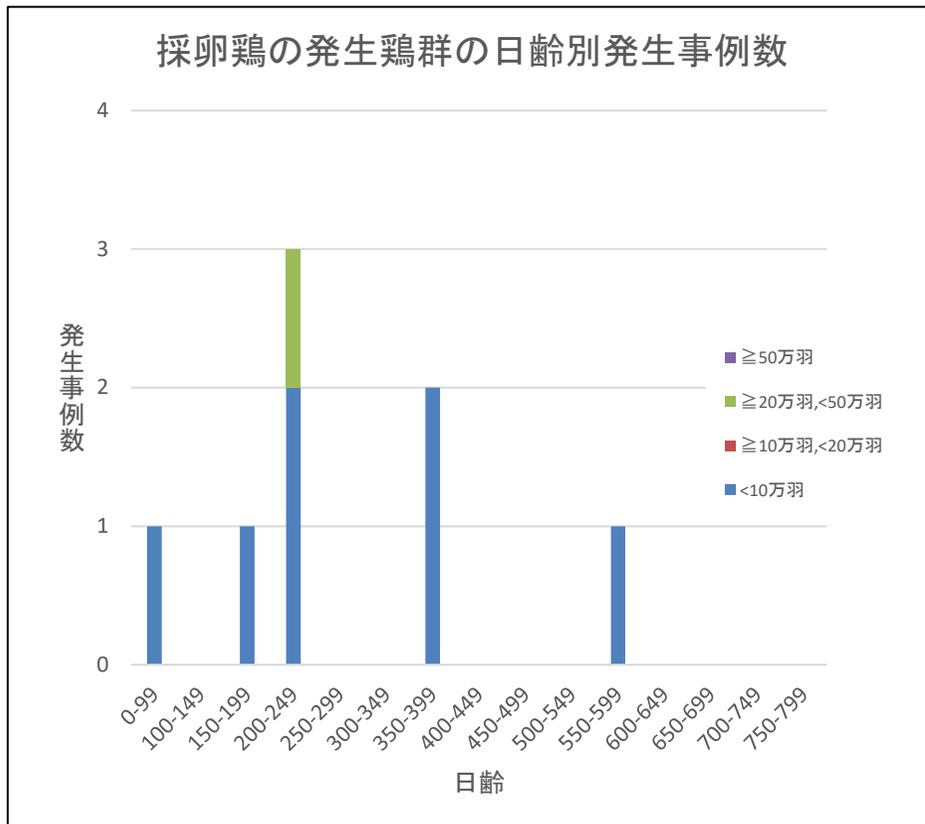
注：疫学関連農場の殺処分羽数を含む。

【注意】本資料は発生事例の情報を図表化したものであり、発生傾向を分析したものではありません。

# 発生鶏群の日齢別の発生事例数

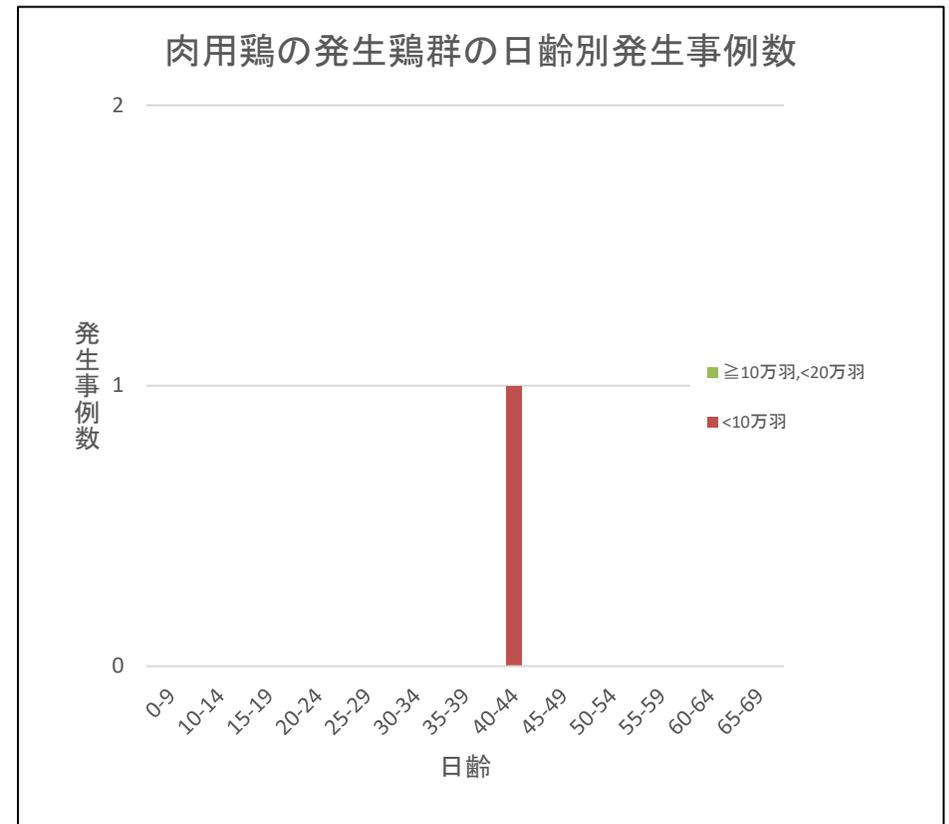
令和6年4月3日時点

## 採卵鶏・育成鶏



注：おおよその日齢を含む。

## 肉用鶏



【注意】本資料は発生事例の情報を図表化したものであり、発生傾向を分析したものではありません。

# 農場周辺状況、野鳥・野生動物生息状況

事例	用途	所在地	周囲状況	農場周辺の水場	主な野鳥・野生動物生息状況
1	採卵鶏	干拓地	水田	河川、水路	農場から100mの川でカモ類約670羽 農場内にネコ、イタチ、鶏舎内にスズメ
2	採卵鶏	丘陵地	林、田畑	ため池	ため池(600m)でカモ類34羽、農場から1.2kmの有機肥料工場 で多数のカラスとトビ 農場上空で多数のトビ、農場内にネコ
3	採卵鶏	平野部	田畑、竹林	ため池	ため池(約300m)にカモ類が十数羽 農場上空でセキレイ、スズメ、ムクドリ等数羽
4	採卵鶏	丘陵部の斜面	畑、果樹園、林	河川	河川沿いの水田でツル240羽、カモ類1,100羽 農場内でネコ、カラス、小鳥等
5	採卵鶏	緩やかな斜面	林、畑	ため池、河川	農場内でキツネの足跡、カラス、セキレイ
6	肉用鶏	山間部	雑木林	ため池、河川	ため池(約100m)にカルガモ11羽、コガモ6羽 農場内にタヌキ、イタチ等
7	採卵鶏	住宅地域	住宅、田畑	複数のため池	農場付のため池にマガモ、アオサギ 農場内にスズメ、カラス
8	採卵鶏	山間部	山林、田畑	ため池	約760mのため池にカモ類56羽、約1.2kmのため池にカモ類 58羽 農場内にカラス、ネコ等
9	肉用種鶏	谷戸	水田、林	川、複数の池	農場内にネコ、イタチ、カラス
10	採卵鶏	山間部	森林	沈砂池(農場内)、 川	農場上空等に150羽のカラス 農場内にネコ、イタチ等、鶏舎内にカラス、スズメ

## 2. 疫学調査時に撮影した写真

1. 野生動物の侵入防止のためのネット等の設置〈基準24〉
2. ねずみ及び害虫の駆除〈基準26〉
3. 衛生管理区域内の整理整頓及び消毒〈基準27〉
4. 疫学調査時に農場で確認された症状
5. 発生農場の周辺で見られた注意すべき環境



発生鶏舎排水口の閉鎖不全。2 cm程度の間隙あり



鶏舎の金網の破損部位。小動物が出入りした痕跡あり



発生鶏舎の破損箇所



閉鎖できない鶏舎の窓



網目の大きな金網 (4×5cm)



集卵ベルト脇の隙間(矢印)。ほこりが取れている



防鳥ネットの補修部分からさらに開けられた穴(赤丸部分)

## 2. 飼養衛生管理基準項目26 ねずみ及び害虫の駆除



発生鶏舎にあった小型哺乳類の足跡



鶏舎内で確認された子ネズミの死体



鶏舎内での鶏の食害



鶏舎脇での農作物の栽培



農場周辺の水場の野鳥



農場付近の水田で確認されたカモ類等



発生農場付近の肥料工場の上空で確認された多数のカラスとトビ



農場上空を飛翔する多数のカラス



農場内で確認されたカラスの死体（HPAI陽性）

## 4. 疫学調査時に確認された農場における症状



鶏冠チアノーゼ



沈鬱



## 第88回家きん疾病小委委員会・疫学調査チーム検討会合同会合概要 (令和5年12月20日)

### <農場周辺>

- 発生農場周辺には、干潟、河川、ため池、水路等(カモ類等の水鳥を確認)
- 発生農場の周辺に林や田畑 → 野生動物の生息に適した環境(農場内でネコ、イタチ等の小型野生動物が侵入、その痕跡を確認)
- 再発農場の周辺では、河川、池などの水場(ゴルフ場含む)でカモ類などの野鳥、有機肥料工場付近でカラスなどを確認

### <衛生対策>

- 衛生管理区域出入り時の車両消毒、衣服・靴交換、手指消毒等  
→ 従業員及び外来業者が一部対策を実施していない  
→ 作業動線の交差や消毒薬の交換頻度が少ない等により消毒効果が不十分

### <家きん舎の状況>

- 壁面、金網等の破損、隙間等により野生動物の侵入の可能性  
→ 金網に小型野生動物の侵入痕跡、鶏舎内部にスズメ  
→ 死亡鶏の処理状況や堆肥舎の管理状況が野生動物を誘引

### <再発農場>

- 経営再開に当たって県が改善指導を行ったものの、シーズンを通じた継続的な飼養衛生管理の実効性が担保されず

# 家きん小委・疫学調査検討会の概要・提言

家きん疾病小委委員会・疫学調査チーム 提言(令和5年12月20日)

## <現状>

- ・令和5年10月末以降、野鳥でウイルスが検出され、**全国的に環境中にウイルスが存在**
- ・韓国では、昨シーズンよりも遅い時期にH5N6亜型ウイルスが確認

## <今後の発生予防対策>

(1)農場従業員を含む家きんの飼養者自らが意識を高く持ち、

- ① 本病ウイルスの人による持ち込みを防ぐため、裏口を含むすべての出入口で**家きん舎に入る前の長靴交換、衛生管理区域専用の衣服及び靴の着用**
- ② 少なくとも1日1回の消毒槽の消毒液の交換を含む**日頃の消毒**
- ③ 隙間がないように思われる家きん舎であっても、養鶏農場の飼養管理に関する**有識者(家畜保健衛生所や産業動物獣医師等)**と連携し、客観的に再度確認して、野生動物の鶏舎への**侵入防止対策**を継続的に行う
- ④ 夜間も含めネコやイタチ等の小動物、カラス等の野鳥を誘引させないように**死亡家きん、廃棄卵及び排せつ物の適切な処理**

等の飼養衛生管理を徹底することが重要。

# 家きん小委・疫学調査検討会の概要・提言

## (2) 昨シーズンの発生農場と同一農場で発生したことについて

- **再発農場**では、既に本病が発生する**環境要因**が揃っており、発生リスクが高い地域であることを認識する必要
- 過去発生していなくても、水場等の野鳥が多い地域はリスクが高い地域であることを認識し、要警戒
- **地域的なリスク低減措置**※を講ずる必要  
(※共同利用施設での交差汚染防止対策、野生動物を誘引する環境の改善など)

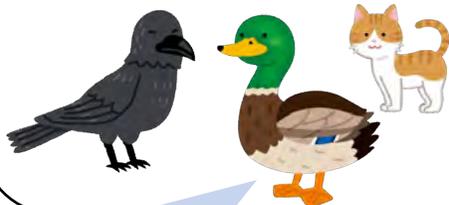
都道府県においては、

- 経営再開に当たったの改善点も含め、改めて飼養衛生管理の状況について確認
- シーズンを通じて飼養衛生管理の実効性が担保されるよう丁寧に指導  
その際、養鶏農場の飼養衛生管理に関する有識者(家畜保健衛生所や産業獣医師等)の視点を取り入れることも有効
- 引き続き、**早期発見**、**早期通報**の徹底が重要

# 鶏舎への高病原性鳥インフルエンザウイルスの侵入について 様々な侵入経路を検証する取組

## 吸気口からの野生動物 遺伝子の検出【R6年度～】

使用済みのフィルターを用いて、  
野生動物の遺伝子を検出



さらに実験室でも…  
実験感染マガモの羽毛  
からのウイルス検出  
【R6年度～予定】



## 鶏舎内の小動物の調査

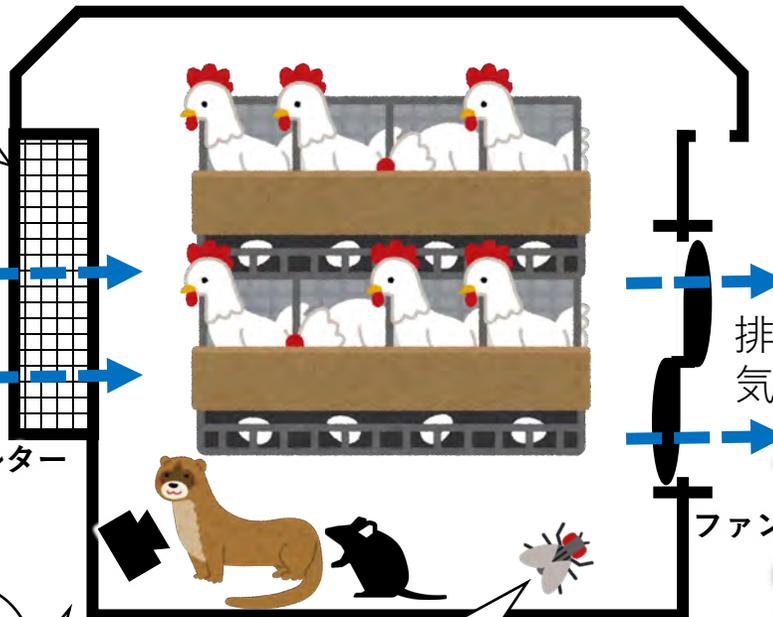


無人撮影カメラによる動物の種類  
や活動パターンの調査

さらに実験室でも…  
実験感染イタチから  
鶏への伝播の評価



ウインドウレス鶏舎



## 発生農場周辺のじん埃 からのウイルスの検出 【R6年度～】

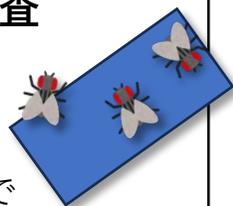
エアーサンプラー  
で集めしウイルス  
検査を実施



ほこり

## 鶏舎内のハエの 侵入状況調査 【R6年度～】

粘着シートで  
捕獲し、鶏舎への  
侵入実態を把握



## 発生農場周辺のハエ からのウイルスの検出 【R6年度～】

ハエを捕獲しウイルス  
検査を実施



このほか、

- ・国内流行株の遺伝子解析
- ・感染実験による病原性解析
- ・飼養環境による鶏の感受性の評価
- ・診断法の検証・改良
- ・症例対照研究によるリスク要因の分析
- ・ワクチンの研究・開発

などを実施。